

日本一の高さの花脊三本杉

午前中のオオハンゴンソウ抜根作業に手間取り、予定より少し遅れての観察会となった。花脊原地のモデル区で抜根作業を終えた31名の参加者は自家用車に分乗して大悲山口から峰定寺へと向かった。峰定寺前で昼食をとった後、寺谷川沿いに花脊三本杉へと向かいました。今日はボランティアの皆さんが路線バスで来て頂いており、何としても大悲山口のバス停に2時35分に着かないと京都バスに乗り遅れるので、三本杉までただただ急ぎました。とは言っても支障のない程度に木々を眺め、葉を拾い、歩きながら説明して、説明を伝言ゲームのように送りました。大きな葉が三つ落ちていたので、拾いました。

ホオノキの葉、トチノキの葉、オオバアサガラの葉。三つを手にとってみると違いがよくわかります。ホオノキとトチノキの葉の違いがよくわからないと言っていた指導員も違いがわかり納得。オオバアサガラはあちこちに広がっておりシカとの関係を知ってもらえました。カエデの樹の種類も多いので落ちた葉を幾つかひらって観察、色の違いの美しさも見たりしました。

大悲山林道に入るとすぐに、深山の趣を感じて参加者の方は「花脊には来たことがあるんですが、こんな所もあるんですね素敵です」と言われたのが印象的でした。ずんずん進んで間もなく到着というあたりから、三本杉のてっぺんが見えてきました。近くに行くより、少し離れた方が他の杉の木との比較ができ大きさを感じてもらうことができました。神垂(シデ)が巻かれている太い幹が三本見えました。これが峰定寺の御神木で日本第一位、第二位、第五位の花脊三本杉です。大きすぎててっぺんは見えませんが圧巻でした。皆さんが気になるのはどれが一番高いかです。あれやこれやと言ってましたが、結局結論はそばの説明板を見て納得。



マムシグサの実



大悲山峰定寺(寺谷川向かいに臨む)



キノコ

ひとしきり見て下山します。意外に早く着いたので帰りはゆっくりと観察しながら歩きました。思い思いに木々の葉を手にとったりしながら観察しています。季節柄、林床や倒木には沢山のきのこが見つかり、次から次に見つかるその形や色のバラエティに富んだ様子が魅了されていました。中でも食べられるカノシタやナメコは興味津々です。しかし一番の見どころは辺り一面に菌輪ようになった傘の表面が緑がかったミネシメジの群生でした。このきのこは独

特の臭い(石鹼臭とも言われている)を持っています。学生ボランティアの方に、「今日はどうでしたか」と聞くと「きのこ狩りなんかもやるのですか。きのこ面白いです」と答えてくれたり。「私は鳥をみたいです」と観察会への興味を語ってくれました。ボランティアから観察会、観察会から保全の活動につながってくれるといいなと感じました。そうしている内に林道入口に近づいています。川に向かって広場のような草地在広がっています。改めてみると実に色鮮やかな樹木の紅黄葉を見ることができました。バス時間にも間に合い参加者を無事見送ることができました。



紅葉のグラデーション



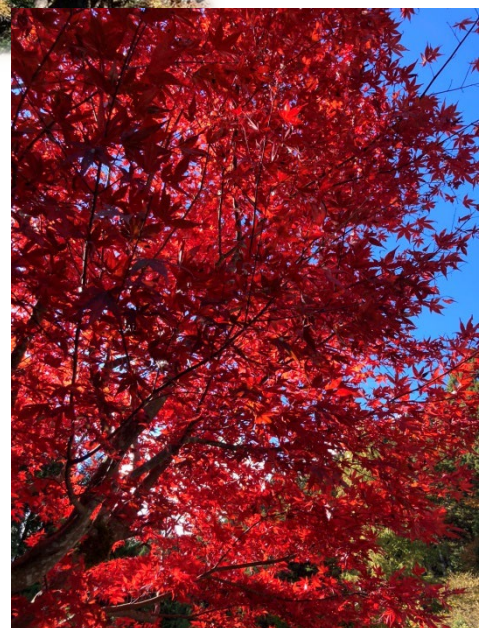
紅葉を見ながら
三本杉へ



黄葉紅葉が美しい



紅葉に感激



燃えるような紅葉



ご神木



杉林



三本杉説明板



三本杉



参加者みんなで

